

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 23 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284156

研究課題名(和文)古墳時代の畿内地域における政権構造の実態と特質に関する考古学的研究

研究課題名(英文) Archaeological Reserch for the Charasteristics of the Elite Network System of Kinai Region of Kofun Period

研究代表者

和田 晴吾 (Wada, Seigo)

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：30115969

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,900,000円

研究成果の概要(和文)：古墳時代は、日本列島の国家形成期として注目を集める時代であり、その中心地であり原動力であった畿内地域の実態解明はきわめて重要であるが、資料の龐大さと多様さに阻まれて、今ひとつ実証面で判然としてこなかった。本研究では、徹底的な資料集成と方法論の提示、そして重要古墳の発掘・測量・資料整理を統合的に推進することで、この課題に考古学から応答し、発掘成果概報や調査報告書、成果報告の刊行などを通じて、今後の研究に重要な基盤を提供するとともに、実際の研究論文などを通じて、有効な方法論と実践も学界に広く提示することができた。

研究成果の概要(英文)：In Japanese archaeology and history, the process of state formation which occurred in Kofun period(3th-6th century)has been an important issue. So, the Kinai district where was the core region of the period has attracted an great attention, and many investigations and studies have been done. However there were not adequate data to achieve the issue. In this research, we have achieved this task by gathering data of tumuli of the region exhaustively, offering appropriate methodology, excavating a tumulus(Itukahara Kofun), and publishing these data. The result of this research will provide important information for the issue.

研究分野：考古学

キーワード：畿内 首長墳 古墳群 向日丘陵古墳群 五塚原古墳 久米田古墳群 GIS

1. 研究開始当初の背景

古墳時代(3世紀半ば～6世紀末)は、7世紀後半以降の律令国家へと結実してゆく、複雑かつ広域的な有力集団内/間関係が展開した激動の時代である。列島史上かつてない規模で人間・器物・情報のネットワークが形成されただけでなく、韓半島および中国王朝との国際関係にも参入した国際的な時代でもある。

したがって、当該期の究明は、列島の政治史・社会史的研究においてきわめて重要な意味を有する。特に当該期の前半期(3世紀半ば～5世紀中頃)は、文献資料が寡少であるため、考古学がはたす役割が実に大きい。

また、当該期の列島の中核であった畿内地域は、律令国家論の「畿内政権」論でも最重要地域であるが、その展開プロセスについてはいま一つはつきりしなかった。しかし、考古学では畿内地域の考古学的発掘が蓄積されており、これを活用しない手はない。ただ、情報が錯綜しており、その情報整理が喫緊の課題となっている。発掘などの実作業と、蓄積されてきた膨大な情報の整理作業の統合こそが、現在の古墳時代研究において必要不可欠の課題となっている。

2. 研究の目的

そこで本研究では、古墳を中心とする考古資料の体系的な分析を軸として、当該期の有力集団内/間関係の特質を明らかにすることを目的に据えた。なかでも、巨大古墳の盤踞が明らかに示すように、列島社会の中心を占めていた畿内地域の古墳(群)の分析を通じて、古墳時代の政権構造の実態と特質を解明することを目的とした。

国家形成プロセスの考古学的検討は、国際的に注目を集めているテーマであり、中南米・ユーラシア・ヨーロッパなど世界各地で新たな研究が蓄積されている。資料分析の緻密さと発掘の精緻さで定評のある日本考古学の成果をまとめることは、日本の考古学の成果の国際発信に直結する点でも重要である。

3. 研究の方法

上記の目的を果たすために、本研究では複数の分析視点と検討作業を設定し、それらの統合化を目指すことにした。

すなわち、畿内地域の有力地域における古墳(群)の発掘・測量調査(1)とその整理・報告(2)を主軸に据え、これに京都府八幡地域及び大阪府和泉の重要古墳出土遺物の整理・報告(3)、畿内地域の首長墳のデータの悉皆集成(4)、前方後円墳のGISデータ作成・解析(5)、(4)に立脚した古墳編年の構築(6)、畿内各地の古墳群の検討(7)を有機的に総合化し、これらを基盤として、古墳時代における畿内地域の政権構造の実態・特質及びその変遷プロセスの動態を解明するという、研究の課題とプロセスを設定した。

そして最終的に、それらの成果を報告書の形で学界に還元しつつ、その反響と意見を反映させて、さらなる研究の進捗へとフィードバックさせることにした。

4. 研究成果

研究の途中で、研究代表者の和田晴吾と研究分担者の下垣仁志が他機関へと移動し、整理作業の主力を担っていた大学院生が就職するなど、逆風も吹いた。また、発掘調査は地元の状況にも大きく左右され、円滑な実行は困難な場合が多く、懸念材料となった。しかし、前者の問題は、学生諸君の努力により、むしろ成果が大きくなった。後者の懸念材料については、地元の方々の温かいご支援のおかげで、当初の予想以上の成果を挙げることができた。

最終的に、研究成果は設定した目標よりも高いレベルで実現することができた。以下、「3 研究の方法」で掲示した分析作業ごとに成果を既述する。

(1)の 畿内地域の有力地域における古墳(群)の発掘・測量調査 では、2013・2014年度に京都府向日市に所在する五塚原古墳の発掘調査を実施し、2013年度には後円部の形状と築造構造にたいして重要な発掘情報を抽出し、2014年度には前方部墳頂の埋葬施設の有無および墳頂部の構造について、きわめて重大な知見を得ることができた。また、その成果については現地説明会を開催し、国民への意義ある還元をおこなった。また、京都市双ヶ岡の群集墳の測量を中途まで完了させた。

それらの発掘・測量調査の成果については、(2)の その整理・報告 において、公表に努めた。五塚原古墳の両年度分の発掘調査概報を当該年度中に迅速に刊行し、双ヶ岡の測量情報も最終年度に公表した。これらはいずれも正報告の形で刊行する予定である。

(3)の 京都府八幡地域及び大阪府和泉の重要古墳出土遺物の整理・報告 について、前者は八幡市教育委員会の厚意を得て、ヒル塚古墳の埴輪の整理作業をおこない、この成果を公表した。後者については、久米田古墳群の整理作業に人員を割き、その成果報告書刊行に重要な役割を果たした。

(4)の 畿内地域の首長墳のデータの悉皆集成 については、2015年度以降、とくに力を注いだ。当初は畿内の予定だったが、範囲を広げた近畿諸府県の重要古墳のデータを鋭意蓄積した。とくに墳長30メートル以上の古墳のデータを悉皆収集し、その発掘データなどを詳細に整理した。このデータもすでに公表しており、今後は諸条件をクリアしたうえでのデジタル公開を考えている。

(5)の 前方後円墳のGISデータ作成・解析 については、研究協力者の原田昌浩と南部裕樹の尽力により、悉皆的にデータを集積し、その成果を成果報告書の考察として公表した。

(6)の古墳編年の構築については、畿内地域の古墳データ一覧表の中で結果のみを公表したにとどまり、方法論と具体的な遺物・遺構の検討は完遂しなかった。

(7)の畿内各地の古墳群の検討については、成果報告書の中で和田晴吾が方法論を中心とする整理を、下垣仁志が首長墓系譜の学資に関する整理を中心に実施し、重要な知見を提示した。

以上(1)～(7)の有機的な総合化作業については、最終年度の成果報告書において、大部の資料集積および考察を提示し、畿内諸地域を中心とする研究者と機関からの反応を得つつ、さらに検討を深めた。

以上のように、本研究では、当初設定した目的をほぼ達成でき、今後の畿内の古墳群研究だけでなく、古墳時代研究、ひいては国家形成研究に、重要な発掘データ・資料データ・方法論などを提供できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 35件)

下垣仁志、古代国家論と戦争論 考古学からの提言、日本史研究、査読無、654号、2017年、50-63頁

和田晴吾、ヤマト王権の動向と東北の古墳時代社会、古代倭国北縁の軌轢と交流 入の沢遺跡で何が起きたか、査読無、2017年、102-113頁、24巻

和田晴吾、古墳からみた葬送儀礼と他界観、大阪府立近つ飛鳥博物館図録平成28年度春季特別展図録、査読無、2016年、110-116頁、69巻

岸本直文、津堂城山古墳と河内政権、塚口義信博士古稀記念日本古代学論叢、査読無、2016年、47-56頁

岸本直文、炭素14年代の検証と倭国形成の歴史像、考古学研究、査読有、62巻3号、2015年、59-74頁

岸本直文、倭における国家形成と古墳時代開始プロセス、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、185号、2014年、369-403頁

下垣仁志、政権交替論の現状と展望、古墳時代の考古学、査読無、9巻、2014年、50-63頁

岸本直文、三角縁神獣鏡と前期古墳、古墳時代の考古学、査読無、4巻、2013年、31-42頁

下垣仁志、鏡の保有と「首長墓系譜」、立命館大学考古学論集、査読無、6巻、2013年、VI、189-201頁

下垣仁志、青銅器からみた古墳時代成立過程、新資料で問う古墳時代成立過程とその意義発表要旨集、査読無、2013年、34-45頁

V.G.チャイルド(著)・下垣仁志(訳)、都市革命、立命館大学考古学論集、査読無、6巻、2013年、529-540頁

[学会発表](計 32件)

下垣仁志、古代国家論と戦争論 考古学からの提言、日本史研究会全体会シンポジウム、2016年10月8日、立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)

和田晴吾、古墳時代の人・もの・情報の流れと久米田古墳群、第29回濱田青陵賞記念シンポジウム、2016年9月22日、マドカホール(大阪府岸和田市)

下垣仁志、人をつなぐ鏡/しぼる鏡、第29回濱田青陵賞記念シンポジウム、2016年9月22日、マドカホール(大阪府岸和田市)

和田晴吾、ヤマト王権の動向と東北の古墳時代社会、東北学院大学アジア流域文化研究所公開シンポジウム、2015年9月21～22日、栗原文化会館(宮城県栗原市)

岸本直文、炭素14年代をふまえたヤマト国像と倭国形成問題、考古学研究会、2015年4月19日、岡山大学創立五十周年記念館(岡山県岡山市)

下垣仁志、邪馬台国から大和政権へ、日本史を読みなおす<古代・中世編>、2015年4月13日、ラポール学園3F(京都府京都市)

下垣仁志、国家形成と器物保有、東アジアにおける倭世界の実態、2015年3月8日、国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)

岸本直文、芝ヶ原古墳と卑弥呼の時代、芝ヶ原古墳と卑弥呼の時代、2014年8月9日、文化パルク城陽ふれあいホール(京都府城陽市)

下垣仁志、弥生「龍」の残映、芝ヶ原古墳と卑弥呼の時代、2014年8月9日、文化パルク城陽ふれあいホール(京都府城陽市)

岸本直文、初期王権論 前方後円墳の波及とその意義、東アジアにおける倭世界の実態、2014年6月28日、国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)

下垣仁志、青銅器からみた古墳時代成立過程、考古学研究会関西例会、2013年11月30日、大阪歴史博物館(大阪府大阪市)

下垣仁志、日本古代「国家形成期」の時空観、日本的時空観の形成、2013年10月20日、国際日本文化研究センター(京都府京都市)

岸本直文、倭王権をめぐる論点整理、東アジアにおける倭世界の実態、2013年6月1日、国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)

[図書](計 13件)

和田晴吾・下垣仁志・原田昌浩・北山大熙、畿内の首長墳、立命館大学文学部、2017年、総657頁

下垣仁志、日本列島出土鏡集成、同成社、2016年、総568頁

下垣仁志、立命館大学文学部、古墳時代銅鏡の研究、2016年、総700頁

下垣仁志、立命館大学文学部、列島出土鏡集成、2016年、総491頁

和田晴吾、古墳時代の生産と流通、吉川弘

文館、2015年、総303頁
B.G.トリッガー(著)・下垣仁志(訳)、同
成社、考古学的思考の歴史、2015年、総512
頁
和田晴吾・下垣仁志、五塚原古墳第5次発
掘調査概報、真陽社、2015年、総16頁
和田晴吾、古墳時代の葬制と他界観、吉川
弘文館、2014年、総280頁
下垣仁志・原田昌浩、五塚原古墳第4次発
掘調査概報、立命館大学考古学・文化遺産専
攻、2014年、総12頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

和田 晴吾(Wada, Seigo)
立命館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：30115969

(2) 研究分担者

下垣 仁志(Shimogaki, Hitoshi)
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：70467398
岸本 直文(Kishimoto, Naofumi)
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80234219

(3) 連携研究者

()
研究者番号：

(4) 研究協力者

内田 真雄(Uchida, Msao)

梅本 康広(Umemoto, Yasuhiro)
大洞 真白(Daido, Mashiro)
虎間 英喜(Torama, Hideki)
長友 朋子(Nagatomo, Tomoko)
南部 裕樹(Nanbu, Hiroki)
原田 昌浩(Harada, Masahiro)
廣瀬 覚(Hirose, Satoru)
森下 章司(Morishita, Shoji)